

平成 23 年 7 月 28 日

各 位

会社名 株式会社 新生銀行
代表者名 代表取締役社長 当麻 茂樹
(コード番号 : 8303 東証第一部)

平成 24 年 3 月期 第 1 四半期決算について

～『反転攻勢』へ向け順調な滑り出し～

当行の、平成 24 年 3 月期第 1 四半期の連結四半期純利益は、前年同期比 42 億円増加し 181 億円となり、キャッシュベース¹連結四半期純利益は、前年同期比 41 億円増加し 208 億円となりました。当行単体の同四半期純利益は、前年同期比 19 億円増加し 66 億円となりました。

ハイライト

- ◇ 四半期純利益は、コア業務の堅調な推移による収益力の底上げとノンコア資産である外国株式の売却益計上、徹底した合理化の継続による経費の削減、コンシューマーファイナンス業務における債権の良質化の進展などによる与信関連費用の減少などから、前年同期比増益。
- ◇ 引き続き各業務分野において営業基盤の強化に取り組む中、コンシューマーファイナンス業務では残高の減少ペースが緩やかになり、貸出金残高は底入れの兆し。
- ◇ 不良債権残高、比率とも低下し、資産の質は改善。また、着実な利益計上により資本の質も向上し、連結自己資本比率、Tier I 比率とも前期末比上昇。
- ◇ 通期業績予想に対する進捗率は高いが、国内外の不透明な経済動向などを踏まえ、業績予想は見直さず。

代表取締役社長 当麻からのメッセージ

「当第 1 四半期は、法人部門、個人部門ともに『反転攻勢』へ向け順調な滑り出しとなりました。資産の質、資本の質の向上に加え、収益力の安定化は着実に進展いたしました。また、貸出金残高が底入れの兆しをみせるなど、顧客基盤の再構築へ向けた努力が徐々に実りつつあります。今後は、銀行本体でのレイクブランドを使った本格的な個人向け無担保ローンの提供により、健全な個人向け無担保ローン市場の形成に努めるなど、引き続きお客さまのニーズに適切に応え、企業価値向上へ向けた不断の努力を継続してまいります。」

決算の概要

- ◇ **業務粗利益**は、法人関連のコア業務、リテールバンキング業務は堅調に推移したものの、コンシューマーファイナンス業務における改正貸金業法完全施行の影響による資金利益の減少などから、前年同期比 130 億円減少し 574 億円。
- ◇ **経費**は、各業務分野における徹底した合理化の継続により人件費、物件費ともに削減した結果、前年同期比 53 億円減少し 311 億円。
- ◇ **与信関連費用**²は、前期までに行った保守的・予防的な引当金の計上や、コンシューマーファイナンス業務における貸出残高減少と債権の良質化進展による与信関連費用の大幅な減少などにより、前年同期の 138 億円から 21 億円に大幅に減少。当第 1 四半期から加算された償却債権取立益 30 億円を除いても 51 億円と前年同期比大幅減。
- ◇ **連結四半期純利益**は前年同期比 42 億円増加し 181 億円。新生フィナンシャル、シンキ、アプラスフィナンシャル、昭和リースなど各子会社とも順調に黒字決算。
- ◇ **単体四半期純利益**は、前年同期比 19 億円増加し 66 億円。
- ◇ **総資産**は国債の減少などにより前期末比減少し 9 兆 4,739 億円となる一方、貸出金はコンシューマーファイナンス子会社の減少分を、住宅ローンの着実な実行など銀行本体での増加でカバーし、前期末比微減にとどめ 4 兆 2,140 億円となり、残高は底入れの兆し。

資本および流動性

- ◇ 自己資本比率は、利益の着実な積み上げなどにより Tier I 資本・自己資本が増加、リスクアセットの若干の減少(6.6 兆円から 6.5 兆円)と相俟って、平成 23 年 6 月末の連結自己資本比率は 9.93%、Tier I 比率は 8.12%と、それぞれ 0.17 ポイント、0.36 ポイント上昇。
- ◇ 不良債権残高は 5 四半期連続して着実に減少し、不良債権比率は 6.04%と 3 月末比 0.74 ポイント低下。保全率は 96.6%と業界有数の高い水準を維持。
- ◇ 流動性は十分に確保し、平成 23 年 6 月末現在の手元流動性は約 1.2 兆円と引き続き高い水準。

平成 24 年 3 月期通期業績予想

- ◇ 業績予想に対する進捗率は高いが、国内外の不透明な経済動向などを踏まえ、連結当期純利益予想 220 億円、キャッシュベース¹連結当期純利益予想 320 億円、単体当期純利益予想 150 億円などの見直しは現時点では見送り。

¹ 純利益からのれんに係る償却額及び企業結合に伴う無形固定資産償却とそれに伴う繰延税金負債取崩を除いたもの

² 当第 1 四半期から「金融商品会計に関する実務指針」(会計制度委員会報告第 14 号 2011 年 3 月 29 日)を適用することにもない、与信関連費用に償却債権取立益を合算。ただし、過去への遡及はせず。

平成 24 年 3 月期第 1 四半期決算の要点、概要は以下のとおりです。
(特段の注記がない限り、以下内容は連結ベースで記載しております)

平成 24 年 3 月期第 1 四半期連結業績の要点

(単位: 億円、%)

	平成24年3月期 第1四半期	平成23年3月期 第1四半期	増減率
業務粗利益	574	704	△18.6%
経費	311	364	△14.6%
経費率	54.3%	51.8%	-
実質業務純益	262	340	△22.8%
与信関連費用	21	138	△84.4%
四半期純利益	181	138	+30.9%
キャッシュベース 四半期純利益	208	167	+23.9%
1株当たり四半期純利益	6.84円	7.06円	△3.1%
同キャッシュベース ¹	7.84円	8.55円	△8.3%
ROE (年換算ベース)	13.2%	12.1%	-
キャッシュベース ROE (年換算ベース)	15.1%	14.6%	-
ROA (年換算ベース)	0.7%	0.5%	-
キャッシュベース ROA (年換算ベース)	0.9%	0.6%	-
(単体)業務粗利益	139	240	△41.9%
(単体)経費	134	144	△7.1%
(単体)実質業務純益	5	95	△94.6%
(単体)与信関連費用	△4	34	△113.6%
(単体)四半期純利益	66	47	+42.4%
	平成23年6月末	平成23年3月末	増減率
総資産	94,739	102,315	△7.4%
リスクアセット	65,595	66,537	△1.4%
1株当たり純資産	212.70円	205.83円	3.3%
自己資本比率(パーゼルII、F-IRB)	9.93%	9.76%	+0.17ポイント
Tier I 比率	8.12%	7.76%	+0.36ポイント
金融再生法上の開示不良債権比率(単体)	6.04%	6.78%	△0.74ポイント
金融再生法上の開示不良債権の保全率 ² (単体)	96.6%	96.8%	-

¹ 四半期純利益からのれんに係る償却額及び企業結合に伴う無形固定資産償却額とそれに伴う繰延税金負債取崩額を除いたもの

² 金融再生法上の開示不良債権の保全率 = 貸倒引当金および担保・保証等による保全額の合計 / 開示不良債権額

当第 1 四半期決算に関する詳細については、以下当行 URL(「決算・財務情報」メニューの中の「四半期決算情報」)をご覧ください。

URL: http://www.shinseibank.com/investors/ir/financial_info/quarterly_results/index.html

以上